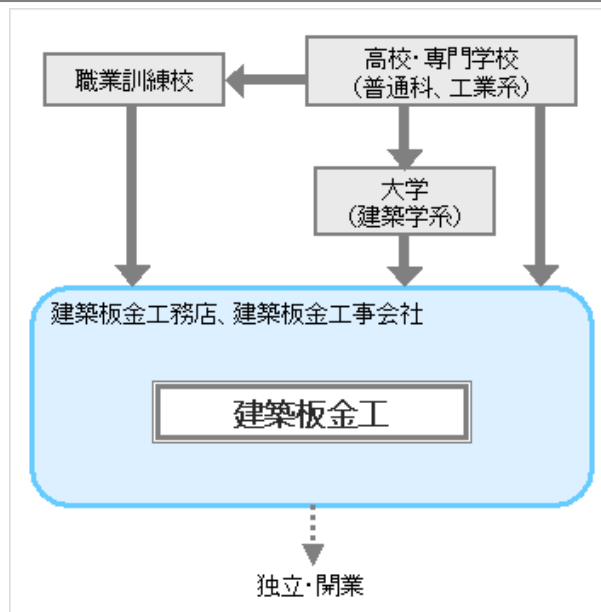


どんな職業か

銅や鉄などの薄い金属板を使って屋根をふく仕事に携わるのが建築板金工である。  
 最近では軽量のカラー鉄板が屋根に広く使われるようになり、建築板金工の手がける工事もカラー鉄板を使うケースが多くなっている。またアルミ板やステンレス板、チタニウム板を使って屋根をふく工事も増えている。  
 一般住宅の屋根をふく場合、まず金属板を切断機で屋根のサイズに合わせて切り、曲げ加工してから屋根の上に運び、フェルトなどで下地ぶきした上に、軒先から順番にぶき上げる。金属板は、吊り子という金物を用いて取り付ける。金属板のつなぎ目は、雨水が入らないように、金属板の端と端を重ねて折り曲げる（ハゼ組み）か、溶接してつなく（シーム溶接）。  
 金属板を使って屋根をふく場合、毛細管現象による雨水の吸い込みや、屋根勾配に吹きつける強風などで金属板がはがれて飛んでしまうことのないように、施工には高度の技術が要求される。その上勾配のある屋根上の仕事であるため、足場も悪く、安全には十分注意しなければならない。  
 屋根工事以外にも、外壁にリブ付化粧鉄板を張ったり、水切り、雨押えなども行う。また、建築板金工はダクトと呼ばれる冷暖房を行うために冷却または加熱した空気を送るための鉄板で作った管の加工・取り付けや、空気の吹き出し・吸い込み用の器具を取り付ける仕事も行う。このような仕事に従事する場合にはダクト工と呼ばれる。

就くには

入職にあたって、特に学歴や資格は必要とされない。従来は学校卒業後、縁故や学校紹介などで就職し、建築板金工見習いとして修業しながら一人前になるケースが多かったが、最近では職業訓練校で技能を磨き、国家資格である「建築板金技能士」の資格を取得する若い人が増えている。工場、倉庫、体育館のような比較的大きな建物の仕事を施工する会社では、専属の技能者を養成しているところもある。  
 新しい材料や工法が多く出現してきており、これらの知識、技能を習得するために業界で実施する各種の講習会に参加することも大切である。「建築板金技能士」や「建築施工管理技士」などの国家資格をはじめとする諸資格の取得により、技能の向上や昇進などの面で有利となる。  
 ある程度仕事を覚えたら独立して、人を使い直接工事を請け負ったり、店を構えることもできる。人を使うようになると、施工図を作成したり、数量や価格の積算が必要となり、作図や計算の能力が必要になる。



労働条件の特徴

地域の小規模事業所が多く、就業者は家族従業者や縁故者が主体である。  
 給与面では、初めは日給月給制であるが、熟練工になると出来高払いで受け取るようになり、独立して人を使うようになると請負になる。出来高制の場合は、本人の能力や地域の条件などによって多少の差がある。  
 労働時間については、工期や天候などの影響により不規則になる場合も多かったが、近年では、4週6休制に変形労働時間制を取り入れた労働時間の短縮が進んでいる。  
 屋根ふき工事を主体とする建築板金工の仕事は、天候に左右されることが多く、勾配のある高い屋根上で、夏の暑い日や厳寒期の時期、風の強い日などに仕事をすることもある。しかし現在では、屋外の作業環境の改善や屋内作業の比率を高める工夫などが続けられ、安全な場所で安心して就業できる環境づくりがさらに進みつつある。

参考情報

**関連団体** 全日本板金工業組合連合会 社団法人 日本建築板金協会  
<http://www7.ocn.ne.jp/~zenban/>  
**関連資格** 建築板金技能士 建築施工管理技士